

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ園立ててく4

国立市立国立第七小学校

平成28年11月28日 NO.72 (372)

モンタ博士「^{てんらんかい}展覧会よかったね。すばらしかったですね。」

フッタ博士「そうですね。^{ななしょう}七小のみなさんが、^{ちから}力を^あ合わせ作り出したすてきな会でした
ね。ところで、^{あき}秋も^{ふか}深まり、^{こうてい}校庭の^{きぎ}樹々が^{いろ}色づいてきましたね。」

モンタ博士「きれいでしょう。^{こんど}今度は『^お落ち^{いろ}葉の色の^{てんらんかい}展覧会』ですよ。モミジは^{あか}赤く、
イチヨウは^{きいろ}黄色、サクラは^{あか}赤や^{きいろ}黄色・^{いろ}オレンジになりましたね。」(色づいた葉の絵や実物を見せる)

フッタ博士「ところで、モンタ博士、どうして^は葉っぱは^{いろ}色づくのですか。」

モンタ博士「それはね、むずかしくいうと、それまで^{みどりいろ}緑色をしていた^は葉のクロロフィルが
なくなってしまう、その代わりに^{あか}赤くなる^は葉には^{あか}アントシアンが、^{きいろ}黄色くな
る^は葉には、^{しきそ}カロテノイドという^{あらわ}色素が^{あらわ}現れるということなんだよ。」

フッタ博士「ふーん。それじゃ、どうしてそんな^{いろ}色が出てくるんでしょう？」

モンタ博士「それはね、^{ふゆ}冬が^{ちか}近づくと、^ね根が^{みず}水をすいあげようとしなくなるし、それに、
^は葉っぱをつけておくと、^は葉っぱから^{すいぶん}水分が^{すいぶん}どんどんなくなってしまうんだ。
それで、^き木は^{じぶん}自分のいのちを守るために、^は葉っぱを^お落とすのさ。」

フッタ博士「へえー。つまり、^はかんたん^おにいうと、^は葉っぱを^お落とすまえに、^は葉っぱにある
^{ようぶん}養分が^{へんか}変化したものということですね。」

モンタ博士「そうそう。そのとおり。そのとおりさ。」

フッタ博士「ちょっと^{しょうがくせい}小学生にはむずかしかったですね。それより、^{いま}今から^{みんな}みんなで
^お落ち^{あそ}葉で遊びましょう。イチヨウの^は葉っぱを^{つか}使って、^{つく}あれを作ります。」

モンタ博士「あれとは、なんですか。ひょっとしてあれですか。」

フッタ博士「そのとおり。あれです。つまり『^{あかしろ}赤白の^でボールから^{でんき}出てくる電気^{ネズミ}ネズミ』。」

モンタ博士「^{ほんとう}本当にできるのですか。すぐ^{つく}作りたいですね。どう^{つく}やって作るのですか。」

フッタ博士「まず、^{ようい}用意するものは、イチヨウの^は葉っぱ(先が^{さき}われているのは^{だめ}だめ)、^{ゆせい}油性
^{あか}サインペンの^{くろ}赤と^{えんぴつ}黒、^{えんぴつ}はさみと^{えんぴつ}とがった鉛筆、まあ、そんなところかな。」

・・・ということで、11月28日^{がつ にち せんこうちょうかい}の全校朝会では、こんなお話^{はなし}がありました。なお、紅葉^{こうよう しく}の仕組みなどについては、平成25年^{へいせい ねん}の『国立てくてくNO.61と62』^{くにたち}を見るとよくわかります。1・2・3年生はもってない^{ねんせい おも}と思います。学校HP^{がっこうホームページ}で見てください。

『赤白のボールから出てくる電気ネズミ』の作り方

